

都小音研

令和5年12月14日第66巻445号

発行所
東京都小学校音楽教育研究会

事務所
東京都三鷹市北野3-1-5
東三鷹学園三鷹市立北野小学校

音楽を通して子供たちを幸せに ～教師の役割～

東京都小学校音楽教育研究会
副会長 岡 千恵
(新宿区立江戸川小学校長)

年の瀬、「歓喜の歌」が世界中に響き渡り、新しい年が喜びに溢れることを期待するこの頃です。

まずは、音楽で子供たちを幸せにしようと日々研鑽を積む本研究会の皆様、そして、支えてくださっている皆様に心より感謝いたします。

音楽教育に携わる教員は、小学校にはかなり以前より、音楽専科制度があったと記憶しています。少なくとも、自身が小学生の頃も音楽の先生の授業を受けていました。実技教科では、伴奏が弾ける、歌える、演奏できるといった技術や技能が、授業をする上で、大いに役立つと考えられていたからではないでしょうか。2022年度より、小学校教育に教科担任制が導入され、各校で具体的な方法を模索しながら教育活動を進めているところかと思えます。そのねらいは、①授業の質の向上、②小・中学校の円滑な接続、③多面的な児童理解、④働き方改革、の4点です。今回は、外国語、理科、算数、体育を優先的に推進するよう述べられています。音楽科は、この役割を今までも、今でも果たしており、これからも一層大事にしていくことで、学校の中で、なくてはならない教科となっていくことと期待します。



同時に、授業の質の向上や多面的な児童理解に良い影響がなければ、専科教員の役割も果たせないということになります。先日、音楽の研究会で講師の先生が、「教師の役割は果たしましょう。」と毅然とご指導くださいました。子供にどれだけの力量があるか、推し量りながら、技能を分かりやすく、主体的に身に付けさせる指導力が必要です。音楽科の教科の特性を熟知して、子供たちを前へ、前へ進めることができる指導技術を磨くことはとても難しいことです。子供たちがどんなに工夫して、理想に燃えて音楽を考えても、表現したものを感じ取り、共有し合ったり、聴き合ったりする音楽を通した学び合いがなければ、心も高まらず、技能も高まりません。子供任せではなく、教師の役割の明確化が必要です。例えば、表現には、息の使い方を学ぶことも必要です。人間にしかできない息の使い方を学び、表現に生きたときに楽しさを感じるのが人間ではないのでしょうか。教え込むのではなく、互いに気付く場の設定、気付きやすい学習環境づくり、授業の構成、全て、教師の役割です。子供たちの応援団、支援者に徹して、教員同士、励まし合いながら、授業を進める専門家としての技量を高めたいものです。

最後に忘れてはならないのが、教育者です。音楽家ではなく、音楽教育を進める教育者としての高い見識をもって臨むことや、謙虚に専門家から学ぶ姿勢も大事です。子供たちの気付きから、指導法を工夫する楽しみは時代を超えて教師の醍醐味と感じます。音楽を通して共に感動し、幸せを感じる子供たちを多く育てていきましょう。コロナ禍を超えるまでの期間に音楽教育についてじっくり学び合った音楽の教員がどれだけ多いことか、と実感しています。音楽づくり、鑑賞の授業、ICTを取り入れた音楽の授業、これらを整理統合し、新たな出発点に立った、まさに飛躍の時期、今こそ、授業研究を重ね、音楽を通して、子供たちを幸せにしていきたいです。

最後に忘れてはならないのが、教育者です。音楽家ではなく、音楽教育を進める教育者としての高い見識をもって臨むことや、謙虚に専門家から学ぶ姿勢も大事です。子供たちの気付きから、指導法を工夫する楽しみは時代を超えて教師の醍醐味と感じます。音楽を通して共に感動し、幸せを感じる子供たちを多く育てていきましょう。コロナ禍を超えるまでの期間に音楽教育についてじっくり学び合った音楽の教員がどれだけ多いことか、と実感しています。音楽づくり、鑑賞の授業、ICTを取り入れた音楽の授業、これらを整理統合し、新たな出発点に立った、まさに飛躍の時期、今こそ、授業研究を重ね、音楽を通して、子供たちを幸せにしていきたいです。

♪ 令和5年度 都小音研 ♪ 各種研究会 活動紹介

都小音研の、特色ある10の各種研究会の活動内容をご紹介します。ぜひ積極的に参加していきましょう。

指揮法研究会

本研究会は「子供の表現意欲を引き出す指揮法の工夫」をテーマに研究を進めています。今年度は普段の授業に生かす指揮の4つの視点を意識して研究授業や合唱団の指導を行っています。指揮が変わると子供の意欲や表現が変化することを実感しながら学んでいます。

上田 真臣 (世田谷・祖師谷小)

編曲研究会

学校の実態や感染症などによる制約がある中でも、音楽表現を深める学習が行えるような、器楽曲の編曲実践・教材作成を行っています。今年度も授業や学校行事のために会員が編曲した楽譜を持ち寄り、実際に楽器を使って音を出したり、映像や音源を聴いたりしながら、効果的な合奏編曲等について学んでいます。

関口 遥 (渋谷・広尾小)

合唱研究会

祝60周年記念!! 児童合唱連盟としてスタートした歴史ある研究会の節目の年。そして、コロナ禍が緩和され、ようやく歌声が戻ってきた年でもあります。今年度は、約150名の会員が毎月の授業研究、協議会から学び、「鼓動の高鳴りを声にのせて歌いあげよう」を目指し、明日へとつないでいます。

日尾 裕子 (杉並・四宮小)

音楽授業研究の会

本年度は音楽づくりア(7)「音遊びや即興的に表現する」活動を通して、主体性・創造性を発揮して学ぶ児童の姿を追究しています。

児童が音楽づくりア(7)の活動を通して身に付けた「音への感覚を研ぎ澄ます」ことを核として全ての音楽活動を充実していくことを見据えて、研究を深めていきます。教師自身も音に対する感性を高めながら、児童への働きかけを学んでいきます。

伊藤 友貴 (江戸川・下鎌田小)

管楽器研究会

本研究会では、管楽器活動を行ってなくても、管楽器を通して音楽科教育を考えていく、という視点で、会員相互のつながりを大切にしながら、欠かすことなく毎月の例会を行い、指導力の向上を目指しています。研究の成果を、発表し互いに聴き合うという目的をもって、2月に行う東京都小学校管楽器演奏会の開催に向けて、研究を進めています。

田辺 昭子 (三鷹・高山小)

合奏研究会

美しい響きで演奏できる児童を育てつつ、技能の習熟に差のある児童にも活躍の場が与えられ、やる気にさせる指導の工夫を、外部講師による研修会や、部員による実技指導、楽曲や指導法の交流等を通して研究を進めています。ベテランと若手の先生方が一緒に悩みを共有しながら進めているので、とても居心地のよい研究会です。ぜひ、一緒に勉強しましょう。お待ちしています。

金田 恵子 (板橋・板橋第一小)

即興表現研究会

「多様な音楽から音楽づくりの可能性を探る」をテーマに、6月7月に研究授業、月一回の定例会を実施しています。研究協議から課題を提示し合い、学習内容や展開、指導と評価の価値付け等を追究しています。今後も、幅広い視野をもった音楽づくりの実践授業や指導法の開発を進めてまいります。

藤井 小百合 (中央・久松小)

鑑賞指導研究会

音楽の好きな児童を育てる鑑賞の授業を目指して、楽しく深く学べる授業づくりを研究しています。前期は『ハンガリー舞曲第5番』の教材分析及び検証授業・研究協議を行いました。要素の働きをレーダーチャートで視覚化するなど、協議で生まれたアイデアを具現化しています。後期は会員の実践事例紹介、教科書教材の分析を予定しています。

井上 奈々 (千代田・千代田小)

邦楽教育研究会

教職員研修センターとの連携研修も3回目となり箏と三味線合わせて50名の研修生が参加しました。今年度は小・中学校から2名ずつの先生が実践例を紹介し、研修生も略案を持ち寄り互いの授業を紹介し合うという内容に加え、2回実施しました。さらに、『八木節』の実技研修も行い、群馬・栃木県で実際の演奏に使われている楽器を取り入れた研修も行いました。

豊田 美千子 (荒川・第二瑞光小)

電子楽器研究会

子供がすすんで取り組める豊かな響きのアンサンブルを目指して研究をしています。今年度は久々に授業研究を行うことができました。また、定例会では、授業における電子楽器の活用法や合奏における表現の工夫について、自分たちが実際に演奏することを通して楽しく学んでいます。

陸田 祐子 (世田谷・城山小)

*連絡先・定例日は都小音研名簿P.75をご覧ください。

講演：鑑賞指導における「郷土の音楽」をどのように教材化するのか ～こきりこ・神田祭・日本の伝統音楽から世界の音楽へ～

講師：茨城県取手市立取手東小学校 教諭 河崎 秋彦 先生

○音楽の教師は「音楽の国」のツアーガイドであり、子供と一緒に音楽を楽しむ案内役！

音楽を味わうとは何か。学習指導要領には「自分にとっての音楽のよさや面白さなどを見出し、曲全体を聴き深めていること」とある。教師は様々なジャンル、形態の音楽をできるだけ紹介し、それぞれの音楽のよさや面白さを発見できるようにし、多様な「面白い」を互いに尊重できるようにしていく。そのために、音楽をいろいろな方法で何回も聴き楽しむことが必要である。音楽を味わうためのステップとして

ステップ①「おや?」「何だろう?」「面白そう!」=気付き、感じ取る段階

ステップ②「なぜ?」「音楽のどこからそう感じたのかな?」「もっと知りたい」=深める段階

ステップ③「音楽の全体が分かった」「聴くのが楽しい」「もっと聴きたい」=味わう段階

がある。この3つのステップははっきりと区切れるものではないが、一連の活動が次の活動への意欲につながっていく。

○教材研究

①こきりこ

「こきりこ」の魅力は声・楽器の音色・演奏の仕方の面白さである。それらを感じ、親しむことができるように、全体の演奏、楽器ごとの個別の音色、唄など、それぞれの特徴が感じられるような教材を収集する。「こきりこ」の歌い方の特徴を文字や記号で表すワークシートを活用し、唄の特徴を視覚的にも感じられるようにする。

②神田祭

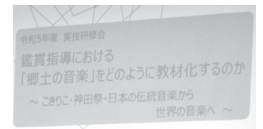
日本の音楽の伝承方法である唱歌は、楽器の旋律を声で模倣したオノマトペである。リズムだけでなく、音色のニュアンスも含まれているため、その面白さを生かして楽器への関心を高めることができる。落語『祇園祭』には「祇園祭」と「神田祭」の唱歌が見事に使われているため、楽しみながら楽器を予想して聴くことができる。

③土蜘蛛

能の面白さは能面を付けた時の「足の動き」「謡の声の出し方」の特徴にある。面をつけて歩いてみたり話してみたりすることで、その動きの理由も実感することができる。また、謡の間を聴いて蜘蛛の糸を投げるタイミングを見つける活動も、情景を感じ取るのに有効な活動である。

○おわりに

全ての音楽は、音楽が生まれたその時代を映し出したものであり、その時代のよさや面白さが反映されている。つまりその時代の流行の最先端が音楽に取り入れられているのである。伝統とは、時代とともに常に変化・進化しているものであり、伝統を守ることは、同じ内容をそのままの状態の後世に伝えるのではなく、伝統が「継続」できる手立てを考え、変化させつつ守ることである。社会の変化と同じように、伝統の継承も予測困難なもの。その分、未来には、今からは予想もつかないような面白い伝統文化の継承が行われ、新しい伝統が生まれているかもしれない。



茨城県取手市立取手東小学校 教諭 河崎 秋彦



NHK全国学校音楽コンクール結果

| | |
|------------------|--|
| 〈全国コンクール〉 | 【金 賞】 目黒区立東山小学校 【銅 賞】 港区立白金小学校 |
| 〈関東甲信越ブロックコンクール〉 | 【金 賞】 港区立白金小学校、目黒区立東山小学校 【銅 賞】 文京区立本郷小学校 |
| 〈東京都コンクール本選〉 | 【金 賞】 目黒区立東山小学校、港区立白金小学校、文京区立本郷小学校 【銀 賞】 日野市立平山小学校、日野市立七尾緑小学校 【銅 賞】 町田市立鶴川第二小学校、日野市立旭が丘小学校 |
| 〈東京都コンクール予選〉 | |
| ○予選A | 【金 賞】 練馬区立光和小学校、日野市立旭が丘小学校、日野市立七生緑小学校、練馬区立開進第三小学校、町田市立鶴川第二小学校、清明学園初等学校 【銀 賞】 成城学園初等学校 【銅 賞】 港区立芝浦小学校 |
| ○予選B | 【金 賞】 杉並区立四宮小学校、日野市立平山小学校、三鷹中央学園三鷹市立第三小学校、文京区立本郷小学校、港区立白金小学校、杉並区立桃井第四小学校、目黒区立東山小学校 【銀 賞】 多摩市立南鶴牧小学校 |

おめでとうございます

ブロックコンクール、全国コンクールの各校の演奏は、Nコンホームページ内の「Nコンon the web」で公開されています。

第66回

都小音研 研究大会 「西武ゾーン大会」

◆開催日

令和6年1月26日(金)

◆会場

学校法人 日本文華学園 文華女子高等学校

都小音研 研究主題

「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」

西武ゾーン 大会主題

「つかもう 広げよう 生かそう 私たちの音楽！」

研究演奏3本
(動画視聴)

研究授業6本
(動画視聴)

研究発表

講演・講評

都小音研ホームページより、12月18日(月)まで申し込みを受け付けています。

会場収容人数を制限するため、定員となった会場は募集を締め切っている場合があります。

都小音研ホームページ
(都小音研でも検索可)

<https://www.tosyouonken.com/>



ICT部 仕事内容紹介

今年度より発足したICT部では、ホームページの更新、ICTを活用した業務の効率化やペーパーレス化の推進等を行っています。ホームページには、都小音研各種研究会の案内や、全日音研や音

ICT部部長 品川区立大原小学校 酒井 哲志

楽鑑賞振興財団等外部団体からの案内も掲載しています。

西武ゾーン大会の案内も掲載していますので、お申し込みの際には、ぜひご利用ください。

♪♪♪ 理事会報告 ♪♪♪

〈7月理事会〉 7月7日(金) 於：八幡小

○会長あいさつ

○議事

- 8・9・10月の行事予定について
- 令和5年度研究大会について
- 各部より *庶務 *会計 *研究 *事業
*調査 *広報 *ICT
- 情報交換

〈10月理事会〉 10月12日(木) 於：八幡小

議長：東海林 茉由 (羽村・羽村西)

○会長あいさつ

○議事

- 11・12月の行事予定について
- 令和5年度研究大会について
- 各部より *庶務 *会計 *研究 *事業
*調査 *広報 *ICT
- 情報交換

◆ゾーン代表者会議報告 (10月12日)

○会長あいさつ、本部紹介

○各ゾーン代表者 自己紹介とゾーンの活動報告

○令和5年度 西武ゾーン大会について

○令和6年度 山の手Aゾーン大会について

○今後の研究大会実施担当ゾーンの確認

○その他

編集後記

なんだかいつまでも暖かいなあと油断していたら、急にぐっと寒くなり、短い秋が終わったのだと実感します。ゆっくりと読書やスポーツを楽しむ間もなく、「行事の秋」を駆け抜けられた先生方も多いことと思います。ゾーン大会も近づいていますが、年末年始はほっと一息つけるといいですね。(Y)

会報 都小音研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会長 峯岸 敦子

編集：広報部

印刷：タイヨ一美術印刷株式会社